

朝早く、ティベリアのホテルのすぐ横のローマ時代の考古学公園を覗いて見た後、同行の友人と二人でガリラヤ湖畔に佇み、風を胸に入れて、もう一度よく見てから、バスの人となりました。



水瓶のレプリカ

この日はイエス様の最初の奇跡、水をぶどう酒に変えられた(ヨハ2:1)カナ(Kefar Kenna)と言われている町にまず向かいました。エズレル平原の高地へ登っていきます。ユダヤ人、アラブ人が住む町で、その中心部にフランシスコ会修道院の婚礼教会があります。ギリシャ正教の会堂、使徒バルトロマイ/ナタナエル記念教会、モスクも近くにあります。

婚礼教会では結婚〇〇年を祝う礼拝が捧げられていて、中年の夫婦たちが真剣な面差しで祝福を受けていました。水瓶のレプリカが飾られている礼拝堂を出ると目の前にワインを売る小さい商店がありました。聖書の時代から今に至るまで、人間は必死で生きているのだと感じました。

カナに、イエス様が滞在中に、カペナウムに住む王の役人が息子が癒されることを願いに来ました。イエス様は「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」(ヨハ4:46)と指摘しながらも、イエス様の言葉を信じた役人の息子を癒された奇跡も起きた場所です。また、復活のイエス様に会ったペトロ、トマスに次いで、ガリラヤのカナ出身のナタナエル(ヨハ21:2)の名前が記され、ナタナエルは、最初は、イエス様を伝えるフィリポに「ナザレから何か良いものが出るだろうか」(ヨハ1:45)と言っています。カナは、ナザレを見下す程、誇り高くなれる地だったのででしょうか。最近の発掘では Khirbet Canaにある遺跡が聖書のカナではないかと言われています。



受胎告知教会

さらにナザレに登りました。ナザレは標高 345m、山の斜面に家々がひしめいているかなり大きなアラブ人の町です。カトリック教会の伝統に拠れば、コンスタンティヌス大帝の母ヘレナの希望で、マリアの家の洞穴の上に教会が 326 年に建てられたそうです。ビザンチンから現代まで、何度も破壊されながらも、細々と生き残り、現在の会堂は 1969 年に建てられたフランシスコ会の教会です。外観は白く綺麗で、バシリカ会堂です。下の会堂の小さな洞穴が天使ガブリエルから受胎告知された所で、祭壇になっています。マリアは清純、無原罪の御宿りと信じられているため、クープラは美しい白百合のイメージで造られています。



上の会堂の壁面、柱にはモザイク、浮彫、陶板画などでイエス様の生涯が描かれています。世界各地から寄贈された聖母子像が壁に飾られ、日本人作の非常に日本的な図柄の、真珠も用いたモザイク画がありました。私が気に入ったのは玄関の浮彫です。イエス様の生涯が描かれていますが、父ヨセフを手伝って働いている姿が左下にあり、人間イエスをも感じました。



この隣りに小さい聖ヨセフ教会もあり、見学しました。父ヨセフがなんと 1870 年にやっと聖人になったとガイドは嘆き、「父とはこんなもんだよ」と。でも、家父長制、父権はいまだに揺るぎなく世界を席卷しているではありませんか。キリスト教会はペトロを父としてしまい、その父権を誰にも奪われなくなかったのでしょうか。母マリアを少女化することで、女性の力をも封じました。

ギリシャ正教ではマリアは井戸辺で告知されたと信じられ、500mほど北に教会があります。現代の私たちは伝統、伝説といわれて守られてきた教会の姿を冷静に、楽しんで見ることが出来ます。